

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グレーシア茅ヶ崎	階数	地上14F
建設地	茅ヶ崎市共恵1丁目5695番3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	263 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年12月 0.0	評価の実施日	2014年7月25日
敷地面積	1,396 m ²	作成者	株式会社安藤・間一級建築士事務所
建築面積	542 m ²	確認日	2014年7月25日
延床面積	5,951 m ²	確認者	株式会社安藤・間一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.2 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% 60% 80% 100% 100%超

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

参照値 100%

建築物の取組み 76%

上記+ 以外の 76%

上記+ 76%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので9(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.4**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 3.9**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 3.3**

Q3 室外環境(敷地内) **Q3のスコア = 3.0**

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.9**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 4.4**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 3.6**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.3**

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
	特になし。	
Q1 室内環境 住居部分の居間には開口部を大きくとり自然光を活用。断熱性能を高めるため、開口部のガラスはペアガラス(一部Low-Eガラス)等を採用。内部仕上げ材に関してはFの建材を全面的に採用し、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量の少ない建材を全面的に採用している。	Q2 サービス性能 免震構造の採用とともに住宅性能の劣化等級3相当として耐久性を高めている。また、仕上げ材についても耐久性の高いものを採用し、更新間隔を長くできるよう配慮している。情報通信設備についても100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能としている。住宅の居室天井高さを考慮し階高を2.965m確保。	Q3 室外環境(敷地内) 地上部緑化の他、屋上、壁面の緑化も採用し、緑の確保に努めている。地上部緑化については中高木を可能な限り植樹するよう配慮している。歩道状公開空地を設け、歩行者が安全に通行できるよう配慮している。
LR1 エネルギー 断熱計画を行い、断熱性能を確保するとともに給湯設備に潜熱回収型ガス給湯設備を採用する等、省エネルギー化を図っている。	LR2 資源・マテリアル 非構造材にリサイクル品を採用。構造体を傷めることなく内装のリニューアルが可能な計画とし、部材の再利用可能性を高めている。	LR3 敷地外環境 風環境の解析を行い、周辺への影響が少ないことを確認している。また、緑地を可能な限り確保し、周辺に対して良好な環境づくりに努めている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される